

平成31年度（2019年度） 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	57		学校名		茨城県立中央高等学校				課程		全日制			校長名		深谷 浩一			
教頭名	広戸 純													事務長名		諸岡 重彰			
教職員数	教諭	34	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	6	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	外国語指導助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	54	
生徒数	小学科				1 年		2 年		3 年		合計				合計				
					男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通				72	88	59	95	79	79	210	262	12						
	(普)スポーツ科学コース				30	10	33	6	29	7	92	23	3						

2 目指す学校像

- ・『知 (virtue)』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校（きめ細かな学習指導・進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を図る。）
- ・自律ある行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校（生活の基礎である基本的な生活習慣を身に付けさせる。）
- ・心のふれあいを大切にできる学校（魅力ある特別活動と部活動の推進を図る。）

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・生徒の進路希望に合わせて特進クラスと普通クラスを設置しているが、卒業生の進路から生徒の希望に応じた授業展開が行われている。 ・担当教諭の学習指導に前向きに取り組み、継続した生徒の学力が伸びている。 ・生徒の学習意欲に差があり家庭学習をほとんどしない生徒が3割以上いる。	・学習意欲の高い生徒のニーズに応える授業内容・指導法の工夫改善 ・生徒の将来に繋がる意識の喚起と更なる授業展開の工夫改善 ・校内での学習に加えて、家庭での学習時間の確保

進路指導	・私立大学延べ合格者数62名（昨年80名）、短大等合格者数21名（昨年11名）、専修学校合格者数81名（昨年93名）、就職者36名（昨年35名）。就職希望者は100%内定した。進路未決定者は3名（浪人1名、留学準備1名、アルバイト1名）であり、進路決定率は98%であった。 ・今年度は、私立大学の一般入試に挑戦する生徒が少なく、延べ合格者数は減少しているが、4年制大学への進学者数は53名と昨年とほぼ変わらなかった。また、関東職業能力開発大学校のような公立の大学校等への進学が増えたため、短大等合格者数は倍増している。その分、専門学校の人数が減少した。就職者はほぼ同じである。 ・国公立大学受験では8名が推薦入試に挑戦したが、合格者数は0と厳しく、実力不足、準備不足の結果となったが、不合格となった生徒から来年度公立化される千歳科学技術大学に1名合格することができた。しかし、センター試験の成績は頭打ちで、真の学力の定着が必要である。 ・学習意欲、進路達成意欲のあまり高くない生徒に対して、より高い進路目標を掲げ、希望進路を実現するために、各学年において、土曜課外、模擬試験、各種進路行事等が計画的に実施されたが、課外授業と推薦面接指導の両立などにおいていくつかの課題が明らかになった。	・幅広い進路希望を実現できる学校として、地域から認識されるためにも、いかにして生徒一人一人に高い進路目標を持たせ、個々進路実現に向け学力を伸ばしていくか ・生徒の学力の底上げとして大学進学希望者数の増加に取り組み、学校としての進路目標として、国公立大学合格、中堅私大合格者数の増加、大学一般合格者数の増加、早期の進路意識の高揚 ・4年制大学進学希望だけではなく、短期大学、看護専門学校や産業技術短期大学校などある程度の学力を要する進路先に対応できる学力養成や、就職希望を実現する基礎学力の定着・生活指導など幅広い生徒のニーズに対応した進路指導 ・経済的理由から奨学金等利用者の増加もあり、学費、奨学金制度、上級学校卒業後のライフプランまで含めた生徒・保護者両方への情報提供
特別活動	・文化祭やクラスマッチ等を通して、連帯感や愛校心が高まっている。 ・スクールバス制度に支えられ、71%の生徒が放課後の部活動に取り組んでいる。 ・生徒会役員が各種説明会での生徒代表として大きく貢献している。	・学校行事の内容の充実（歩く会、クラスマッチ等） ・部活動の活性化と強化 ・活発な生徒会活動の展開
生徒指導	・登下校では、頭髪、服装などほとんどの生徒が順守しているが、校舎内では、約5%程度の生徒に襟元の乱れなどがみられる。 ・くるぶしソックスを履いている女子生徒が見られる。 ・遅刻など基本的生活習慣が身につけていない生徒が数名いる。 ・自転車通学者の約5%程度の生徒に、車道の右側通行、傘さし運転など道交法違反をしている場面が見受けられる。 ・生徒への指導について教職員の共通理解がさらに必要である。 ・中学時に不登校であった生徒やおとなしい生徒の居場所が教室にあり、落ち着いた学校生活を送っている。	・校舎内外の巡回指導や登校指導の充実 ・主体的に校則を順守できる意識の向上と公共の場でのマナーの高揚 ・教職員間の指導基準の再確認と一部の教職員に過度な負担がかからないよう全職員による生徒指導の徹底 ・反社会的な行動をする生徒を生まない雰囲気づくりや非社会的な行動をとらない安全・安心な教育環境の整備

4 中期的目標

- ・多様化した生徒の学習意欲を喚起するための教育内容・教育方法の充実を図る。
- ・生徒の多様な進路選択を実現するために、個に応じたきめ細かな進路指導を行う。
- ・生徒指導の一層の充実を図り、規律正しい行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校作りを目指す。
- ・心の問題を抱える生徒が多くなっている現状を重視し、個人面談・教育相談体制の充実を図る。
- ・活力ある学校づくりのために、部活動の充実と強化を図る。
- ・明るく楽しい学校生活になるようホームルーム活動、生徒会活動、文化祭、クラスマッチ等の内容の充実を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上	(1) わかる授業の展開及び生徒の進路希望に沿う学力向上を目指し、指導を工夫する。 (2) 学習意欲を高めるため考査の充実を図る。 (3) シラバスの有効活用に努める。 (4) 家庭学習の習慣化を図る。
2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実	(1) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより高大接続改革に対応する学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。
3 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進	(1) 生徒の自主性を尊重した学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の活性化を目指す。
4 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実	(1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) 生徒理解を深めるために教育相談等の有効活用を図る。 (4) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。